

2016年3月期 第1四半期決算説明会

主な質疑応答

日時：2015年7月31日（金）13:30 ～ 14:30

出席者： 代表取締役 社長執行役員 横田 浩
取締役 常務執行役員 業財務部門長 浜田 昭博
執行役員 経営企画室長 杉村 英男

1. トクヤママレーシア PS-2 について

Q1 : トクヤママレーシアの16年3月期における収益見通しを下げっていますが、今後のスケジュールに変更はありませんか。

A : スケジュールの変更はありません。予定通り本年の10月、11月に定修、12月に起動、そして12月の中盤から析出を開始、第4四半期には一定の成果を確認できると考えています。

Q2 : 半年くらい前には、稼働が安定しない理由が特定できていなかった印象がありましたが、現時点ではいかがでしょうか。

A : 現時点は不具合の原因が特定されたという状態で、不具合箇所の修理を始めています。我々がとっている対策が適切であれば、定修明けから計画通りに立ち上がると思っています。

Q3 : 18年3月期の計画の前提になっている販売価格とキャッシュコストを教えてください。

A : 末端のスポット価格を20ドル/kgとおいています。キャッシュコストにつきましては従来と変更なしの14ドル/kgを前提とした計画となっています。

Q4 : 太陽電池向け多結晶シリコンの今の需給バランスは18年3月期には正常化されてくるといふ見方なのでしょうか。

A : ご指摘の通りです。

Q : 仮定の話ですが、15ドル台前半という今の市況が続いた場合、収支計画が下振れしたり、PS-2の減損処理を迫られる可能性はあるのでしょうか。

A : キャッシュコストの目標を14ドルとしていますが、できる限り下振れしないよう日々改良しながら更なるコストダウンに努めます。しかし万が一市況が現状のまま推移すれば、キャッシュコスト14ドルでは事業としては到底成り立たないため、会計基準に則った処理を考慮せざるを得ないと判断しています。

2. トクヤママレーシア PS-1 について

- Q5 : 訴訟の件は、どうなりましたか。またこの件は中期計画に入っていますか。
- A : 詳細についてはこの場ではお答えできませんが、訴訟の件は専門家を交えていると議論、手続きを進めているところです。訴訟により発生する可能性のある賠償金や費用等は中期計画には織り込んでいません。

3. 配当について

- Q6 : 復配の見通しについて、どのようにお考えでしょうか。
- A : できるだけ株主の皆様へ復配できるようにしたいと、常々考えております。復配に向けての基本的な条件は、トクヤママレーシアの事業が軌道に乗ることを確認できたというものです。定修以降のプラントの立ち上がりや、将来的な太陽電池向け多結晶シリコンの市況感などを確認しながら総合的に判断していきたいと考えています。

4. セメント事業について

- Q7 : 4月の説明会では、国内需要が横ばいでも数量を増やすという通期計画だったと思いますが、今回、数量の見通しを引き下げた理由を教えてください。
- A : 上期は、関東地区でも東京を除くと非常に動きが悪い状況です。下期に向かって物の動きは戻ってくるだろうと見ておりますが、お盆くらいまでは荷動きが重いということで、マイナス修正をしました。

以上